

2020（令和2）年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業

＜専門職研修＞

テーマ：「ヴァルネラビリティへの入退院支援のあり方」



これまでのソーシャルワークは、主として自らの生活困難と支援の必要性を言語によって表現することが可能な人と契約を結び、支援を展開するという考え方に基づいて取り組まれてきました。

しかし、生活困窮者自立支援法の対象者に見られるように、ソーシャルワークの支援を必要としている人は、困難な状況に対処する力をもつ人ばかりではなく、言語を用いて自らの生活の困難を表すことができないために支援が利用できない人々が存在します。

そのような状況にある人々は、支援を求めようとしても、他人の目が気になる、人と関わることに対する不安や怖さがある、支援を利用して問題を解決する気力がないなど、傷つきやすさ、社会生活を送るうえでの脆弱性をもち、これらの状況が福祉サービスやソーシャルワークの支援機関への結びつきにくさを増幅させています。

これら、ヴァルネラブルな状態にある人が抱える生活のしづらさの実態を明らかにするとともに、生活への願いや支援の要望の表出を支援するためのアセスメントの視点と枠組み、相談援助面接のあり方など、これまでのソーシャルワークでは支援から取り残されがちな人々に対する支援の検討がソーシャルワークにおける「人間の尊厳」の実現に結びつくと考えています。

（玉木千賀子：沖縄大学ホームページ）

日時：2021（令和3）年02月24日（水）
19：00～20：30（18：30～受付）

※ZOOMによるオンライン研修

講師：玉木 千賀子 氏
（沖縄大学人文学部福祉文化学科）

対象：医療ソーシャルワーカー
退院調整看護師
その他関係職種等

参加費：無料

最後のセンター試験の国語問題にも出題された「ソーシャルワーク」！「レジリエンスとは」「ヴァルネラビリティとは」ソーシャルワークとしての入退院支援について、今一度考えてみましょう！

主催・問い合わせ先：沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
TEL/FAX：098-893-1221（直通：樋口）
Email：m.higuchi@okiu.ac.jp